

<主要テーマの一例>

食の心理メカニズムを司る食経験依存的な食嗜好性変容機構の解明

食の嗜好性は、甘味を好み、苦味を嫌うなど先天的に決定されていますが、子供の時に飲めなかったコーヒーが好きになるなど、食経験（食記憶）に基づいて後天的に変容します。これまでに続けてきた記憶研究の経験と技術を使って、食嗜好性変容メカニズムの解明に挑戦します。本研究は生物学的メカニズムが不明である拒食症や過食症など摂食障害の理解と改善方法の開発にも貢献できると考えています。

①マウスにおけるヒト型食行動の心理行動モデルの開発（次々と開発中）

食新奇性恐怖モデル；好物のチーズであっても食経験後に多く食べる

感性満腹感モデル；今食べているものとは別の食べ物を食べたくなる



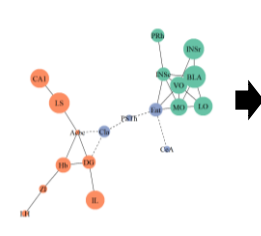
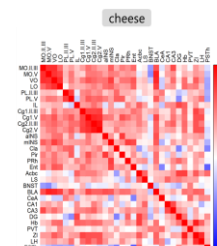
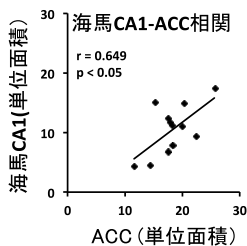
食物留保モデル；次に食べるものに応じて食べる量を調節する

②食経験を記憶するエングラム（記憶痕跡）の同定

数理的解析によるエングラムの予測

光・化学遺伝学的解析

神経活動依存的遺伝子発現の網羅的解析



③食記憶依存的に食嗜好性が変容する神経回路の解明

④食により快情動（快感）や共感をもたらす神経回路の解明

快情動



共感



準備中：ヒトの食嗜好性変化を誘導する心理課題開発など（ヒト対象研究）

食嗜好性が後天的に変容し食習慣が変化するメカニズム、食により幸福感がもたらされるメカニズムを解明し、人類のwell beingとして好き嫌いを苦痛なしで克服し、健康な食を愉しんで食べることのできる食習慣改善技術の開発を目指す。